

### 緊張したけどがんばりました もつすぐ1年生

伯耆町有線テレビジョンで放送される「もつすぐ1年生」の収録に、各保育所の年長児が挑戦しました。

「もつすぐ1年生」は、町内保育所の年長児が、『小学生になったらがんばりたいこと』や『将来の夢』などをカメラの前で話す人気コーナーで、平成12年度から毎年放送しています。2月7日は、溝口保育所の年長児が収録に挑戦。自分の背丈より大きな収録機材にビツクリしましたが、いざ収録が始まると、元氣よく大きな声で、小学生になったらがんばりたいことなどを宣言しました。

「もつすぐ1年生」は、2月27日から3月21日までの平日、2・3名ずつ放送します。ぜひご覧ください。



将来の夢を話すにしむらさとみちゃん

### こたつにあたりながら語り合う 大山の水の歴史



大前さんの報告に聴き入る参加者

ふるさと講座「こたつで話す日光歴史ばなし」が、1月26日と2月15日に、日光公民館で開かれました。

この講座は、こたつにあたりながら気軽に、日光の歴史について語り合う場として、日光公民館が昨年度から開催しています。

今回のテーマは、「大山水系の源流と水利用」。大内集落の大前義弘さんと、小林集落の千田明さんが、別所川など7つの源流の水源地と、各井手の取水口から水路までの流れ方の調査報告をしました。参加者は、谷と谷に挟まれた地形の中で、先人たちは、どのようにして水を得ていたかなどについて語り合いました。参加した男性は、「任んでいる近くのことでも、知らないことが多かった」「有意義な時間だった」と感想を話しました。

### 認知症と自殺の予防法紹介 福井の病院理事長招き講演会

認知症予防と自殺予防について学ぶ講演会が1月22日、農村環境改善センターで開かれました。

この講演会は、認知症発症の原因や予防方法、自殺予防について学習しようと、南部箕蚊屋広域連合と伯耆町が主催。講師には福井県の敦賀温泉病院理事長 玉井顯さんを招きました。玉井さんは、「健康な脳とこころのまちづくり」と題し、認知症の特徴や、認知症の人の接し方などのほか、うつ病の特徴などについても分かりやすく紹介しました。参加者は、時折メモを取るなど、玉井先生の話を真剣に聴き入っていました。

この講演会の模様は、

3月10日に伯耆町有線テレビジョン放送で放送します。ぜひご覧ください。



満員の会場で講演する玉井先生

### 人を思いやる「こころを大切に

#### 人権作文コンテスト入賞

第31回全国中学生人権作文コンテストで、岸本中学校の吉野紗恵さんが、奨励賞を受賞しました。

このコンテストは、全国の中学生を対象に、人権に関する作文を募集するもので、今大会には、過去最高の6,682校89万3,258人から応募がありました。

吉野さんは、「兄から学んだこと」と題し、心臓病と闘った兄を通して、命の尊さや人権について考えたことを作文にしました。米子人権擁護委員協議会の佐野史子会長は、「命の大切さをとても理解している、すばらしい作文」と評価。吉野さんは、「とても驚いたが、うれしかった。これからも自分のことだけでなく、相手のことも考えて生活したい」と受賞の喜びを話しました。



佐野会長から賞状を受け取る吉野さん

### 二部にかつての活力を

#### 地域再生大賞優秀賞



出雲街道「道しるべ」を設置する会員

地域活性化に取り組む団体を支援しようと設けられた「地域再生大賞」の優秀賞に、二部地区活性化推進機構が選ばれました。

「地域再生大賞」は、地域の疲弊を打開しようと取り組む団体の支援を目的に、地方新聞46紙と共同通信社が合同で、平成22年度に創設しました。

同機構は、地域に活力を取り戻そうと平成11年に発足。特産品を詰め込んだ「ふるさと小包」の発送や、地元山菜を振る舞う「山菜賞味会」を開催するほか、出雲街道として栄えた歴史を後世に残すための「道しるべ」設置などを実施しています。

受賞にあたり田邊公教会長は、「大変名誉なこと。今後も継続して活動していきたい」と話しました。

### 互いの伝統文化に触れる

#### 読谷村・伯耆町交流

沖縄県読谷村の子ども会が、2月3日から4日間伯耆町を訪れ、鬼面太鼓振興会と交流しました。

この交流会は、鬼面太鼓振興会の会員が沖縄を訪れたことをきっかけに始まり、以来、読谷村と伯耆町を行き来して、交流を深めています。

今回は、読谷村の渡慶次区の子ども会員約20人が伯耆町を訪れ、ウインタースポーツ体験や町内家庭に宿泊し、伯耆町の文化に触れたほか、お互いの芸能発表などを行いました。芸能発表では、渡慶次区に伝わる「獅子舞」を披露。無病息災を願い250年前から行われているこの「獅子舞」は、現在でもお祭りなどで年3回程程度披露されています。

参加した渡慶

次子ども会の会員は、「鬼面太鼓の掛け声は、沖縄のエイサーにはなく、とても新鮮だった」と感想を話しました。



獅子舞を披露する渡慶次子ども会